

2008/05/21

第51回全国医学生ゼミナールin群馬 第3回全国準備委員会

山田泉先生のお話を聞いて

日時：2008年5月17日（土）14：00～

場所：昭和大学旗の台キャンパス

4号館600号室

文責：医ゼミ全国実行委員会 宇敷

参加学生からの感想を原文をできるかぎりそのまま打ち込みました。

・1秒の重みを自分もできる限り大切にしたい。今日のご講演頂き、ありがとうございました。

・本当に興味深い講演会でした。私も大学でピアカウンセリングという子供たちに性教育を行うサークルに入って活動していて、その中で、中学生や高校生の心が疲れているな...雰囲気ですさんでいるなっというのは感じていました。性教育とは生きることについて考えることだと私は思っているので、VTRにでてきた「いのちの授業」やそれをうけた生徒さんたちの変化にすごく、すごく驚かされたというか、励まされたような気がしました。今のサークル活動だけでなく、将来、人、ひとりひとりと向き合う私たちは、いのちについて、考えていかなければいけないし、いくら、仕事が忙しくても、その大切さというのはしっかりと自分の心にもっておかなければダメだと感じました。自分の気持ちが言葉や表情、姿にうつしだされるんだ...ってこと、忘れずにいたいです。今日は出会えてよかったです。本当にありがとうございました。

・とてもいいお話がきけて、今日はよかったです。どうもありがとうございました。一期一会って、こーゆーことなんだなあとかつての教え子と再会する山田さんの姿をVTRでみて、感じました。日々、一生懸命に生きられている方々のパワーの源に触れられて、こちらも元気を頂きました。学んでいく仲間とともにステキな医療者になれるように、一緒に医ゼミでがんばっていきたいと思います。本当にありがとうございました。

・「言葉」にすることと、「自分ができること」を深く考えさせられました。私も今、医療者がかける言葉や表情に興味があるというか、将来、医療現場に出てから練習するという訳にはいけないので、今回山田先生から聞いたお話から、言葉一つ一つを大切にしていこうと思いました。自分ができること、したいことを今やっていきたいです。

・話をきいてて思ったのは、人の温かさを忘れてしまってることが多いってことです。背中を合わせるだけで人の温かさって感じられるのに、私たちはそれすらできていない。山ちゃんがビデオの中で、生徒の手をにぎって話をして、そういうことが大事なんだと、人の温もりを私も感じたくまりました。

・二人称の死ではなく一人称の死について考えられることを、その当事者から聞けてとても有難かったです。

・「実際に会って話をしないと分からないものがある」という言葉を本当に実感しました。本当に貴重なお話を聞けて、この講演が聞けただけでも遠くまで来たかいたががあったと思いました。今日はお聞きした話は、大切に心に留めておいて、実際に数年後に患者さんと向き合った時に、生かせるならいいなと思います。

・私は生命倫理という授業で、「あなたがもし余命3ヶ月だったら？」という授業をしました。自分におきかえて考えているだけでとてもつらい事でした。そして自分の事や、家族の事しか、頭にありませんでした。しかし今日山田泉さんの話を聞いて、今まで以上にいのちについて考えさせられましたし、自分や家族だけでなく、自分の辛い部分をつつみかくさず、話して下さっている事に、私はとても人としてすばらしいと思いました。これから医療者として仕事をする上で、もっといのちについて考えていきたいと思いました。

・山田先生の講演、すごく心うたれました。ガン告知を受け、また、全国から講演依頼がきているけれど、断っているなか、私たちのために大分から来てくださったことをとてもうれしく思いました。先生の話の中で印象に残ったことは、「いのち」の授業をすることで、子どもたちが変わっていったこと。また、ハンセン病の療養所にFWに行ったり、末期の患者さんの所にいったりすることで、「いのち」ということを深く考えさせる場所をつくってくれた山田先生の存在は子供たちにとって大きくて、こんな大人に出会えた彼らは幸せだなって思った。また、山田先生と上野先生の2人の関係が、自分をさらけ出せる友人がいるということがとてもステキなことだと思いました。最後に、山田先生からいただいた「ひとりから」という言葉。このことばは簡単なようで難しい。けど、すごく大切なことだなぁって思いました。

山田さん、上野さん、ありがとうございました。私も日々を大切に、今やれることをやり、生きていきたいです。

・命や死に対して、本物の患者さんの生の体験を聞く機会に出会えて、本当に良かったと思う。セカンドオピニオンの大切を知った。“命の授業”を子供たちにすることで、当り前のようにならわれていた“死ぬ”などの発言が消えたこと（結果）、効果が出たことが凄いいと思った。全国の学校でも、このような授業をして、自殺やいじめ問題を一件でも減らせればいいなと思う。書きたいことが沢山ありすぎてまとまりませんでした。すいません。

・私の父は、9年前にガンで亡くなりました。父が入院していた頃、私は11さいだったので、父はガンだと知ってはいましたが、死ぬことは想像しなかったし、できませんでした。父は入院してすぐに、余命が3ヶ月だと聞かされていたそうです。それにも、かかわらず、父は「必ず生きる」と言いつづけ亡くなりました。言ってみれば、私は父に何も優しくしてあげられなかったんです。今思うと、もっと父に何かしてあげたかったと思ってなりません。今後看護師の道を歩む上で、ガン患者の生の気持ちを聞くことができ、大変良かったです。

・ホスピスに関心があるので、とても貴重な講演でした。ホスピスを体験された方がその体験や、医療者から言葉で感じたことを聞ける機会というのは滅多にないと思います。どんなに患者さんのことを考えても、相手は自分が体験したことのないことをたくさん経験しているので、想像するには正直限界があります。そのような中で、直接的なお話をして頂けて、とても嬉しく思いました。医療者の言葉、態度がPt（患者さん）に与える影響の大きさを改めて感じました。本当に、貴重な講演をありがとうございました。

・最初の講演からすでに涙が出そうになりました。しかし、暗くならないような活動はさすが先生だと思いました。講演会の内容は話だけでなく、実際のVTRでよりリアルに伝わってくるものがあった。講演の中ででてきた「何かを覚える授業でなく感じる授業」となりました。

・命の大切さを身にしみて感じている方々の話をいうのはとても説得力があり、命について深く考えさせられた。また、山田泉さんが闘病、そして「いのちの授業」の活動に邁進する中で心に残った様々な言葉というのは私自身の生き方にも影響するようなものばかりだった。非常に貴重な言葉たちだったと思う。

・「死ね」「殺す」、自分が小学生・中学生だった頃、こういった言葉をよく耳にしました。その言葉の中身はなかった気がします。ただ相手を威嚇したり、からかったり。高校生になって「いのり」や「平和」という言葉を耳にするようになりました。大切な物と知っていましたが、どこか中身のなさをそこでも感じた気がします。知識はあるが理解できないというか、心の中に入ってこないような…。大学に入り、学外で様々な実習をしました。いろいろな職種や患者さん、その家族、多くの方とふれあい、「いのち」や「平和」の中身が心の中に入った気がします。こういった体験や考えたり話し合う場が、「いのちの授業」がもっと小さいときからあったら、日本はもっと違うんじゃないか、そう思います。形は違いますが、自分も医師として自分にできる「いのちの授業」をしたいと思います。

・話を聞いて感じることもあったし、山田先生と上野さんの姿からも感じられることがありました。「一人の医療者」としてではなく「一人の人間」として、真摯に接すれば、心を開いてくれるという実体験を聞かせていただいたり、山田先生の「死」（＝死を見つめることで、生を実感、考えていく）の考えを目のあたりにして、自分の中にすごく影響を受けました。また、患者（特に末期患者）に対して、医者がかかる言葉かけ1つで、「薬」にも「毒」にもなるということを改めて気付かされました。やはり、実際に、人と会い、話を聞くことで、新しく始まりますよね。「ひとりから」ですね。

・本当に良い講演会をお聞きできてとても勉強になりました。私も普段「死にそう」とかすぐに口にしてしまうことがあります。もっと普段の生活を見直していかなければならないと思いました。また、中学生の子たちが山田先生の家に来たときのお話がとても感動し、涙が止まりませんでした。とても胸に響きました。私が、中学生だったときに先生に「いのちの授業」をやってほしかったととても感じました。なので、これからもこの「いのちの授業」をしていってほしいし、自分も医療者になったときに「いのちの授業」のような「いのち」に関するることについて伝えていきたいです。本当にありがとうございました。

・今「いのちの授業」をもう一度、を読んでいるところです。本で読んだ場面を映像として見れたり、直接声で聞くことが出来たことにとっても感動しました。また、本当に山田さんがそう場面・言葉が大切に印象的だったのだと感じました。本の中で、差別は正しい知識を知らなかったことで誰もが侵してしまうものだということをととても重く受け止めました。山田さんから、ここには書ききれない程のことを感じさせられ、考えさせられました。ありがとうございました。

・「目の前の子どもたちに、いいと思ったことを精一杯したい」とハラくくって生きている生き方に心うたれました。「子ども」を「患者さん」に変えて、同じように自分は生きられるだろうか、問い直したいです。(同じ医学部で学んでも、今回のような話をわざわざ聞きに来るような友人はほとんどおらず、こうやって問い直す機会をいただいて、なんとか、保っているのかなと思います。)ありがとうございました。

・ガンと告知されてから受け入れるまでにはかなりの時間がかかったと思います。それを伝えるってことはかなりのエネルギーと心強さがなくちゃできないです。一人の人間として、一人の医療系学生として...今できることをしたい、人を大切にして精一杯今を生きたい。そして、いつか自分が死ぬ時...後悔しない生き方をしたいと思った!!

私は将来...ガンについての勉強をしたいと思いますし、ガンを治せる未来が来てほしいと心から願います。私の身近にもガンの人がいて、自分の無力さを感じたり、その人のために何ができたらいいのに...って思いました。今生きていること自体がスゴイことというのを今の人には忘れてしまってきている部分が多くて時々悲しくなります。命って言葉で言えなくらいあたたかくて重いもので...ほんとうに愛しいもの。命の大切さを忘れない医療者になりたい。そのために今、医ゼミにきて、たくさんの人と接して、沢山のことを感じ、学び、教えられ、人を思いやれるようになりたいです。今日は本当にありがとうございました。